

## 数研 AGORA

▶公民科「倫理」における心理学  
／楠見 孝……1  
▶共通テスト「公共、政治・経済」に向けて  
／吉田 英文……5

▶特別記事：数研出版100周年……7

No.81

この用紙は、再生紙を使用しています。

## 公民科「倫理」における心理学 —新たな内容に基づく授業実践のために—

京都大学教授  
楠見 孝

2022年度からの高等学校学習指導要領の改訂に伴い、公民科「倫理」の中に、心理学の内容が従前以上に導入された。教科書における心理学の内容を共同執筆した心理学者の立場からその背景と今後の授業実践に向けての課題について述べる。

### 1. 公民科「倫理」で本格的に心理学を扱うようになった背景

「倫理」に心理学の新たな内容が導入された背景には以下の2つのことがあると考えている。

第1は、扱う内容の不十分さである。旧学習指導要領における公民科の「現代社会」「倫理」では、心理学の内容について、昭和30年代の「社会」「倫理・社会」のころから、心理学の学問の発展を踏まえた更新があまりされないままであった。たとえば、性格の類型論のクレッチマーは、多くの教科書が取り上げてきたが、現在の標準的理論である性格特性論のビッグ・ファイブに言及している教科書は多くはなかった(楠見, 2022b)。

公民科において、以前から取り上げられている青年期の諸問題に関わるアイデンティティや精神分析などのテーマは、高校生にとって自己理解につながり、心理学についてのイメージを形成してきた。さらに、大学で心理学を学ぶ進路選択のきっかけになることもあった。しかし、大学入学後に、高校時代に思い描いていた心理学のイメージと大学で学ぶ科学的な心理学とのギャップを感じる事が起こって

いた(楠見, 2018)。こうしたことから、高校生に、心理学の進歩を踏まえた内容を伝えた上で、現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方を考えることが必要であった。

第2は、履修者の少なかった旧課程の選択科目「倫理」を、生徒にとって魅力ある科目にすることである。日本学術会議哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会「提言：未来を見すえた高校公民科倫理教育の創生—〈考える「倫理」〉の実現に向けて」(日本学術会議, 2015)によれば、教科書の採択数から、高校生全体における履修率は3割弱と推測している。そして、こうした現状を踏まえて、公民科倫理教育の改革の方向性を論じている。

この履修者が少ないという問題は、公民科「倫理」は地歴科の科目とは異なり、大学入試の2次試験に出題されることが少ないという現状がある。そのため「多くの高校ではセンター試験の受験を意識して、各思想家の考え、著作やキーコンセプトを簡潔に学ぶ授業が行われるのが一般的である」(日本学術会議, 2015, p.3)。心理学の新たな内容の導入は、共通テストのためだけの科目ではなく、自己理解を深め、生き方を考える「倫理」の実現につながるだろう。そして面白くてためになる科目として、多くの生徒が履修するようになればと考えている。

上記以外にも複数の背景があると考えられるが、こうした状況の中で、新学習指導要領の公民科目改訂によって、つぎの2科目で心理学の内容がつぎの

ように、扱われることになった。

1, 2年生が学ぶ新設必修科目「公共」(2単位)では、従来の「倫理」で扱われてきた「青年期の課題」が、学習指導要領の大項目『公共の扉』における中項目[公共的な空間を作る私たち]の中で、「生涯における青年期の課題を人、集団及び社会との関わりから捉え、他者と共に生きる自らの生き方についても考察」するように「内容の取扱い」で示されている。これは従来と変わらない点である。

一方、心理学の新たな内容が導入されたのが、2, 3年生が学ぶ選択科目「倫理」(2単位)である。『現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方』において、個性、感情、認知、発達などに着目して、自己形成に向けて、思索を深めるための人間の心の在り方について取り上げるようになった。学習指導要領の「内容の取扱い」には「青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方についても触れる」というように、「心理学」という学問名がはじめて登場し、その4つの主要分野が取り上げられることになった。この4領域は、心理学の基礎的領域であり、高校において教科「心理学」がある米国や英国などのカリキュラムにおいても、これらの内容が含まれている。

## 2. 心理学を高校生にどう教えるか

1の最後で述べた新たに導入された心理学の内容についての学習を深める方法として、学習指導要領解説では「様々な人間の心の在り方について科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果」の利用と「対話や作文」が示されている。ここでは、実験・調査例を示した上で、生徒自身が実験・調査をして、その結果に基づいて、議論をしたり、日常生活の経験も踏まえてレポートをまとめる授業を進めることが考えられる。たとえば、数研出版教科書『倫理』の第1章「さまざまな人間の心のあり方」におけるコラム「心理学実験」(pp.10, 15, 19, 20)では、「心の理論の発達」「ハインツのジレンマ」「メタ認知を試してみよう」「自分のパーソナリティを調べてみよう」「基本感情を当ててみよう」を授業中に実施し、それぞれの結果を記録して、クラスで集計した結果を統計的に分析したり、対話しながら考察を深めることが考えられる。

学習指導要領解説公民編では、注意点として、「心理学の学説や各種の実験や観察の結果の紹介を知識

として習得させる指導で終わることのないよう」とある。それは、「倫理」における位置づけである「現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方について思索を深めるための手掛かりとして学習することができるよう工夫」が求められるからである。たとえば、前掲教科書『倫理』のコラム「心理学実験」の「自分のパーソナリティを調べてみよう」(p.19)では、まず各自に質問項目への回答を求め、自分の評定結果を知る。その上で、遺伝と環境や発達の変化などの研究結果を参照しながら、パーソナリティの発達について考えさせる学習が有効である。また、「他の教科等における精神の健康や適応、発達などに関わる学習との関連」づけを行う必要が挙げられている。これは、4において論じる。

学習指導要領解説では、中項目「幸福、愛、徳」および「善、正義、義務」等については、「公共」との関連づけが述べられている。「公共」では、「囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れ」ることが、科目の方向性を検討する際に議論されていた(文部科学省, 2016)。これらは、心理学による実験や調査例を取り上げて、関連づけて学習することが考えられる。

また、道徳については、前掲教科書『倫理』では第1章「さまざまな人間の心のあり方」の「発達の心理学」では、道徳性の発達(p.10)、「感情の心理学」では、道徳には怒り、罪悪感、恥、憐れみ、感謝などの感情が関わること(p.21)について言及している。また、カント(p.101)や功利主義(p.140)の道徳についての記載ページへの参照を明示している。

さらに、中項目「真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解すること」の内容の取扱いにおいては「真理を視点として活用する際には、人間の認識や経験、偏見や先入観、言語や論理、有用性や功利性との関係などについても思索することができる」としている。この視点において、心理学の研究を「相互に関連付けて理解することで、多面的、多角的な考察につなげる」ことができる。たとえば、人間の認識や経験、偏見や先入観、言語や論理については、コラム CLOSE-UP「認知バイアスと批判的思考」(p.23)との関係に基づいてまず捉え、さらに、ベーコンの4種のイドラ(p.87)、コラム CLOSE-UP「対話・議論の技能」における推論

の誤り(p.224)、「差別の構造と偏見の心理」(p.226)などと、相互に関連づけて捉えることができる。

また、「様々な世界観について理解する」では、これまでの教科「倫理」と同様に、プラグマティズムのジェームズ(pp.21, 108)や、精神分析のフロイトやユング(pp.123-124)についても、心理学に関わる人間観として理解を深めることが考えられる。

また、内容の大項目「現代の諸課題と倫理」では、生命、自然、科学技術などと人間との関わり、福祉、文化、宗教の倫理的課題については、調査結果に基づく心理学的検討もできる(例:生命倫理、環境問題、異文化理解(pp.208-233))。

このように、公民科「倫理」の中で、心理学の内容は、人間としての在り方生き方を学ぶ中で、多面的な見方の一つである科学的な見方として、道徳的な諸価値や現代の倫理的問題の解決に役立てていくことが考えられる。

### 3. 高校生に何を学んでほしいか

高校生に学んでほしいことは2つのレベルがある。

第1は、公民科「倫理」を通して、心理学の4つの基礎領域の理解を深めることである。学習指導要領解説では、人間の心の在り方について理解する際に着目すべき視点としては、以下の4つを挙げている。「個性は、一人一人の人間にはどのような性質の違いがあるのか、その違いはいかに形成されるのか」、「感情は、物事に対して起こる人間の気持ちにはどのような特徴があるのか、またそれは人の適応にとってどのような意味をもつのか」、「認知は、知覚、記憶、推論、問題解決といった人間の知的な活動にはそれぞれどのような特徴があるのか」、「発達」は、人間の心の機能は生涯にわたっていかに変化するか、その変化はどのような要因によって起こるのか」である。さらに、「こうした多様な視点に着目した学習を通して、人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するか、またそこにはどのような一人一人の違いがあるのかに関する心の仕組みと成り立ちを理解」すること、そして、「倫理」の教科としての視点である「それらを踏まえて、人間とは何かを改めて自ら思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めること」である。

第2は、第1の事柄を土台とした公民科「公共」「倫理」の学びを通じた心理学的リテラシーを学ぶことである。ここで、心理学的リテラシーとは、市

民生活に必要な(a)基本的な心理学用語(アイデンティティ、適応、動機づけ、メタ認知、認知バイアスなど)の理解、(b)心理学の科学的手法の理解(実験、調査など)、(c)心に関わるサービス(カウンセリングなど)、教育(大学で心理学を学ぶ進路など)、福祉、メディアなどについての理解を踏まえて、自ら適切な行動がとれる能力である(楠見, 2018)。

これらは、生徒の異なる進路(将来大学に進み、心理学を専門として学ぶ生徒、専門としない生徒、そして、進学をしない生徒)に共通して大切である。生徒の中には、心理学を学校で学ぶことが最後になることも考えられるので、よりよい人生を歩むために、心理学の基礎的な理解と心理学的リテラシーを、高校時代に身につけてほしいと考える。

### 4. 「倫理」の心理学を教科横断的に教える

「倫理」の心理学の内容は、図1に示すように、公民科だけではなく、教科横断的に教えることが考えられる(楠見, 2022a, 日本学術会議, 2020)。

たとえば、公民科「倫理」を通して学ぶ心理学の4領域は、つぎのように他の教科と関わりがあり、科目横断的に学ぶことが考えられる。前掲教科書『倫理』を取り上げて考えてみる。

『発達心理学』(pp.8-11)は、「家庭」における子どもの生活と保育から、高齢期の生活と福祉が関わる。

『認知心理学』(pp.12-15)は、知覚の生理的過程は「生物」、文字や画像などの情報の認知は「情報」が関係する。問題解決と推論、実験や調査データの扱いは「数学」の集合と命題やデータの分析、メタ認知は教科を越えた効率的学習法の問題と関わる。

『人格心理学』(pp.16-19)における、個性の遺伝は「生物」が関連し、適性の問題は、ホームルームなどでの進路学習にも関わる。また、精神疾患の予防と回復などを扱う「保健」とも関連する。

『感情心理学』(pp.20-22)における感情の生起や身体的変化は神経系や進化を扱う「生物」が関わる。

さらに、「総合的な探究の時間」において心理学に関わるテーマを取り上げて探究を深めることができる。また、特別活動におけるホームルーム活動(進路指導も含む)、生徒会活動、行事(文化祭、体育祭、修学旅行など)や部活動におけるリーダーシップや集団問題解決、意思決定なども心理学と関連する。

このように、「倫理」における心理学の内容を取り上げる時間が限られている中で、他の教科や教科外

活動との結びつきを、生徒に明示的に伝えて、学習を進展させ、自らの生き方や社会との関係についての思索を深めるように動機づけることが大切である。



図1 公民科の教科内と教科横断の心理学(楠見, 2022a)

## 5. 今後の課題：心理学者と高校教員との連携

最後に、心理学の新たな内容に基づく授業実践のために、今後の課題として公民科担当の高校教員と心理学者との連携を考えてみる。

第1は、大学で心理学を専門に学んだ高校の公民科担当教員が少ないという問題がある。その解消策として、公民科教員向けに、高校生に教えるための心理学の知識とスキルを身につけるための教員向けの講習会、参考書、指導案、webページのリソース集の提供が必要である。教科書は紙幅が限られているため、理論が中心に記されている。そうした場合には、理論を導いた実験や調査の手続き、結果やその解釈についての説明が必要である。また、「倫理」教科書において、本稿の2でも一部述べたが、心理学の内容と思想史や現代の課題との関連づけも重要である。これらのためには教員向けの多様な補助教材や解説書(例：数研出版『倫理 教授資料』)が必要である。これらの作成は、大学の心理学者や哲学者・倫理学者、教育学者、その関連学会、そして、高校教員と連携して進めていくことが重要である。

第2は、高校生に心理学を教えるための教授法の開発である。ここでは、知識の伝達だけでなく、実験や観察、調査などの能動的活動を取り入れることで、議論を活発にして、思考を深めることができると考える。また、マスメディアによる誤った信念(例：血液型性格判断などの俗説)をもつ高校生に対して、どのように授業するかも課題である(楠見, 2018)。その一つの解決策として、これまで心理学者がアウ

トリーチ活動や出前授業などにおいて開発してきた体験型教材を活用して、実験を体験し、データに基づいて、議論し、思考を深めることが考えられる。

第3に、公民科担当の心理学を教える高校教員と心理学者が連携するための組織的活動である。日本心理学会(2023)では、高校心理学教育連絡協議会を2023年秋に発足させたので、関心のある先生方に入会をお勧めしたい(会費無料)。あわせて、日本心理学会では、高校教員や高校生向けのwebページ「高校で学ぶ心理学とは」を作成している。

以上のように高校教員と心理学者が連携して、公民科の心理学に関わる授業実践を充実させて、多くの高校生に「倫理」を学んでほしいと考えている。

付記：草稿に対して、数研出版教科書『倫理』の共同執筆者である林創神戸大学教授からコメントをいただきました。記して感謝します。

## 【引用文献】

- 楠見 孝(編)(2018). 心理学って何だろうか?——四千人の調査から見える期待と現実—— 誠信書房
- 楠見 孝(2022a). 高校生に伝えたい公民科の内と外の心理学(Psychology for U-18) 心理学ワールド, No.97, 42-43. <https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2022/04/97-42-43.pdf>
- 楠見 孝(2022b). 高校公民科と心理学教育. 教育心理学年報, 61, 189-206. <https://doi.org/10.5926/arepi.61.189>
- 文部科学省(2016). 高等学校公民科における科目構成及び新必修教科目「公共(仮称)」の方向性として考えられる構成(素案) 教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第10回)配付資料 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/071/siryu/attach/1371199.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/071/siryu/attach/1371199.htm)
- 日本学術会議(2015). 提言：未来を見すえた高校公民科倫理教育の創生—〈考える「倫理」〉の実現に向けて 日本学術会議哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会 <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t213-1.pdf>
- 日本学術会議(2020). 提言：未来のための心理学の市民社会貢献に向けて—高等学校の心理学教育と公認心理師養成の充実を 日本学術会議心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会及び健康・医療と心理学分科会 <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t296-4.pdf>
- 日本心理学会(2023). 高校心理学教育連絡協議会の発足について <https://psych.or.jp/highschool/organization/>